商品名　セレネース内服液0.2% 医薬品基本情報

薬効	1179 その他の精神神経用剤	一般名	ハロペリドール液
英名	Serenace	剤型	液
薬価	15.10	規格	0.2% 1mL
メーカー	住友ファーマ	毒劇区分	(劇)

セレネース内服液0.2%の効能・効果

統合失調症、そう病

セレネース内服液0.2%の使用制限等

1. 昏睡状態、中枢神経抑制剤の強い影響下、重症心不全、パーキンソン病、レビー小体型認知症、類薬で過敏症の既往歴、本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、アドレナリン投与中＜アナフィラキシー救急治療・歯科浸潤又は伝達麻酔除く＞

記載場所	使用上の注意
注意レベル	禁止

2. 低血圧又はその恐れ・疑い、心・血管疾患＜重症心不全を除く＞又はその恐れ・疑い、QT延長を起こし易い体質、低カリウム血症、痙攣性疾患又はその既往、てんかん又はその既往、甲状腺機能亢進状態、脳器質的障害、栄養不良状態を伴う身体的疲弊、脱水を伴う身体的疲弊、脱水状態、肥満、長期臥床、不動状態、肝機能障害、高齢認知症

記載場所	使用上の注意
注意レベル	注意

セレネース内服液0.2%の副作用等

1. 悪性症候群、無動緘黙、強度筋強剛、嚥下困難、頻脈、血圧変動、発汗、発熱、白血球増加、血清CK上昇、ミオグロビン尿、腎機能低下、筋強剛、嚥下性肺炎、高熱が持続、意識障害、呼吸困難、循環虚脱、脱水症状、急性腎障害、死亡、心室細動、心室頻拍、Torsades de pointes、QT延長、腸管麻痺、
食欲不振、著しい便秘、腹部膨満、腹部弛緩、腸内容物うっ滞、麻痺性イレウス、悪心、嘔吐、遅発性ジスキネジア、口周部不随意運動、四肢不随意運動、低ナトリウム血症、低浸透圧血症、尿中ナトリウム排泄量増加、高張尿、痙攣、抗利尿ホルモン不適合分泌症候群、SIADH、無顆粒球症、白血球減少、血小板減少、横紋筋融解症、筋肉痛、脱力感、CK上昇、血中ミオグロビン上昇、尿中ミオグロビン上昇、深部静脈血栓症、肺塞栓症、静脈血栓症、血栓塞栓症、息切れ、胸痛、四肢疼痛、浮腫、AST上昇、ALT上昇、γ－GTP上昇、ALP上昇、ビリルビン上昇、肝機能障害、黄疸

記載場所	重大な副作用
頻度	頻度不明

2. 錐体外路症状、パーキンソン症候群、振戦、筋強剛、流涎、寡動、歩行障害、仮面様顔貌、嚥下障害、アカシジア、静坐不能、不眠、焦燥感、神経過敏

記載場所	その他の副作用

3. 心電図異常、QT間隔延長、T波変化、頻脈、角膜混濁、水晶体混濁、角膜色素沈着、過敏症、発疹、じん麻疹、そう痒感、光線過敏症、貧血、白血球減少、女性型乳房、乳汁分泌、高プロラクチン血症、インポテンス、持続勃起、喉頭攣縮、過鎮静、抑うつ、知覚変容発作、浮腫、排尿困難、体温調節障害

記載場所	その他の副作用
頻度	頻度不明

4. 血圧降下、起立性低血圧、肝機能異常、ジスキネジア、口周部不随意運動、四肢不随意運動、不随意運動、ジストニア、痙攣性斜頸、顔面攣縮、喉頭攣縮、頸部攣縮、後弓反張、眼球上転発作、眼調節障害、食欲不振、悪心、嘔吐、便秘、下痢、口渇、月経異常、体重増加、呼吸困難、眠気、眩暈、頭痛、頭重、不安、幻覚、興奮、痙攣、性欲異常、脱力感、倦怠感、疲労感、発熱、発汗、潮紅、鼻閉

記載場所	その他の副作用
頻度	5%未満

5. 嘔吐症状を不顕性化、悪性症候群、一過性血圧降下、QT延長、錐体外路症状、高熱反応、肺塞栓症、静脈血栓症、血栓塞栓症、催奇形性、口蓋裂、脳奇形、着床数減少、胎仔吸収増加、流産率上昇、胎仔毒性、哺乳障害、傾眠、呼吸障害、振戦、筋緊張低下、易刺激性、離脱症状、ジスキネジア、低血圧、過度の鎮静、重症の錐体外路症状、筋強剛、ジストニア症状、呼吸抑制、昏睡状態、心電図異常、Torsades de pointes、血圧上昇、循環虚脱、突然死、死亡率上昇、
乳腺腫瘍、下垂体腫瘍

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

セレネース内服液0.2%の相互作用

1. 薬剤名等 ： アドレナリン

発現事象	作用を逆転させ重篤な血圧降下	投与条件	-
理由・原因	アドレナリンはアドレナリン作動性α、β－受容体の刺激剤であり、本剤のα－受容体遮断作用により、β－受容体刺激作用が優位となり、血圧降下作用が増強	指示	禁止

2. 薬剤名等 ： アドレナリン含有歯科麻酔剤

発現事象	重篤な血圧降下	投与条件	-
理由・原因	アドレナリンはアドレナリン作動性α、β－受容体の刺激剤であり、本剤のα－受容体遮断作用により、β－受容体刺激作用が優位となり、血圧降下作用が増強	指示	注意

3. 薬剤名等 ： 中枢神経抑制剤

発現事象	中枢神経抑制作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤及びこれらの薬剤の中枢神経抑制作用	指示	注意

4. 薬剤名等 ： アルコール

発現事象	相互に作用を増強	投与条件	-
理由・原因	アルコールは中枢神経抑制作用を有する	指示	注意

5. 薬剤名等 ： リチウム

発現事象	重症の錐体外路症状、心電図変化、非可逆性の脳障害、持続性のジスキネジア、突発性の悪性症候群	投与条件	-
理由・原因	抗ドパミン作用の増強	指示	注意

6. 薬剤名等 ： 抗コリン作用を有する薬剤

発現事象	腸管麻痺等の抗コリン系の副作用が強くあらわれる、精神症状が悪化	投与条件	-
理由・原因	抗コリン作用が強くあらわれる	指示	注意

7. 薬剤名等 ： 抗ドパミン作用を有する薬剤

発現事象	錐体外路症状、内分泌機能異常	投与条件	-
理由・原因	抗ドパミン作用が強くあらわれる	指示	注意

8. 薬剤名等 ： タンドスピロン

発現事象	錐体外路症状を増強	投与条件	-
理由・原因	タンドスピロンは弱い抗ドパミン（D2）作用を有する	指示	注意

9. 薬剤名等 ： ドパミン作動薬

発現事象	作用が減弱	投与条件	-
理由・原因	ドパミン作動性神経において、作用が拮抗	指示	注意

10. 薬剤名等 ： 薬物代謝酵素を誘導する薬剤

発現事象	本剤の作用が減弱	投与条件	-
理由・原因	薬物代謝酵素誘導作用により、本剤の血中濃度が低下	指示	注意

11. 薬剤名等 ： CYP3A4を誘導する薬剤

発現事象	本剤の作用が減弱	投与条件	-
理由・原因	薬物代謝酵素誘導作用により、本剤の血中濃度が低下	指示	注意

12. 薬剤名等 ： CYP3A4を阻害する薬剤

発現事象	本剤の作用が増強し副作用が発現	投与条件	-
理由・原因	薬物代謝酵素阻害作用により、本剤の血中濃度が上昇	指示	注意

13. 薬剤名等 ： CYP2D6を阻害する薬剤

発現事象	本剤の作用が増強し副作用が発現	投与条件	-
理由・原因	薬物代謝酵素阻害作用により、本剤の血中濃度が上昇	指示	注意

14. 薬剤名等 ： QT延長を起こすことが知られている薬剤

発現事象	QT延長	投与条件	-
理由・原因	QT延長作用が相加的に増加	指示	注意

薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量
Drug Intelligence Reinforce
医薬品データベースの決定版 『 DIR 』

Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.